

人耕道剣

6

2019年4月1日発行 / vol. 6 / 石巻剣道連盟広報記録部 広報誌



新元号の年を迎えて

平成31年、平成最後の新年が明けました。穏やかな新年の幕開けに安堵し、災害の無い穏やかな1年でありますよう祈念した次第です。

平成最後の新年を迎え、去る1月7日、今上陛下は、御即位満30年をお迎えになりました。

そして、4月末日をもって平成の御代が終わり、新帝即位、新しい御代が始まります。私共は平成の御代に生きた民として、今上陛下の30年に感謝の誠を捧げたいと存じます。

この30年の間、天皇陛下の御姿を直接あるいは映像を通して拝し、また御製やおことばを拝して、とげとげしい日常から穏やかな気持ちに変わった体験を持つ人は少なくないのではないでしょうか。ましてや石巻など被災地などさまざまな困難な立場にあった人々は、どれほど陛下から勇気を鼓舞された事かと思います。

ところで、石巻剣道連盟における昨年の各種大会等における活躍、主催した各種行事等に対しまして当連盟の先生方、各道場、スポーツ少年団関係者の皆様の御協力、御支援に心から敬意を表し感謝申し上げます。

皆様には、剣道人として自分の剣を磨き、剣道を通じて青少年の健全育成に御尽力いただいておりますが、昨今、中・高校における部活動に対するあり方が文科省より通達があり時間的制約に戸惑うばかりでした。だ

「剣道耕人」の由来

「剣道耕人」は、石巻(旧河北町)が生んだ剣道範士八段武山松五郎先生の遺文である。武山先生は人づくりの重要性を強く認識され、「剣道をもって人を耕す」という信念で剣道の振興発展に尽力された方である。武山先生は常に、指導者は、剣道の事理一致の修業を通じて自らを高めることができあり、剣の理法を修練する中で青少年の心身を耕し、人間形成をはかることが剣道本来の姿であると説かれた。石巻剣道連盟広報誌発刊に当たり、武山先生の御意思である「剣道は処生大道なり、耕は尽くることなし」を継承すべく、広報誌名を「剣道耕人」と命名した。



からこそ、各道場やスポーツ少年団での剣道指導、稽古が肝要であり、剣道の理念に基づいた剣道人育成が、我々剣道人として連盟としての使命であると思いまます。大いに頑張りましょう。今年も石巻剣道連盟に対しまして旧倍以上の御支援、御協力賜りますようお願い致しますと共に、連盟各位の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。



石巻剣道連盟会長
齋藤 正美

理事長挨拶

理事長 後藤 文雄



新役員で望んだ、平成30年度、会員の皆様のご協力・ご支援により、各事業が、大きな成果のもと終了しようとしています。心から厚く御礼を申し上げます。

平成30年度は、剣道の世界大会が韓国で開催され、参加国のチュニジア共和国選手団が石巻市を

9月17日(月)から20日(木)訪問されました。石巻剣道連盟としては歓迎行事を、交流稽古会を始め居合道・少年剣道の稽古風景の見学、日本刀の講演会を行いました。この取り組みに対し、会員の絶大なるご支援・ご協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。

また、石巻剣道連盟の各専門部の各行事の運営がスムーズに行われました。総務部は、武道フェスティバルなど、広報記録部は、連盟活動の記録、収集保存整理などを行いました。また、指導部は、毎月の小学生による合同練習会及び一般稽古会、選手選考など、事業部は、大会の開催、昇段審査会等を行い、活動は順調に進められた年でした。

これからも、会員の皆様のご協力・ご支援をいただきながら、いろいろな課題に向け汗を流して参りたいと思います。会員の皆様の今後益々のご活躍・ご発展をお祈り申し上げます。

事業部

鍊成大会を終えて

去る平成30年10月14日(日)、第七回石巻地区少年剣道鍊成大会が今回も盛大に行われました。

石巻地区の少年剣士にとっては、恒例の大会であり、子どもたち全員が出場できる本大会。今年度は、小・中学生333名と昨年度を上回る参加者を得て、各部門とも気合のこもった熱い試合が繰り広げられました。これまでの練習の成果を大いに發揮して、必死に闘う姿には毎回、力をもらっています。

事業部では、約2ヶ月間かけて、大会当日に向けての計画・準備を行っています。中学生二部の部門を設けて



いることが、本大会の特色ですが、付け加えて初心者による基本演武を今回も取り入れました。この子たちが来年度の大会には選手として試合に出場することになるでしょう。また、佐藤潤先生、佐藤勝昭先生による日本剣道形も素晴らしい演武でした。

今年度も、選手の試合態度、節度ある応援や観戦がとても素晴らしい、元気いっぱいの試合が展開されました。各部門個人戦入賞の皆さん、おめでとうございます。

結びに、大会運営・審判に携わっていたいた剑連各部の先生方、準備から後片付け、係としてご協力いただいた保護者の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

事業部 齋藤 淳史



総務部

チュニジア代表選手との
剣道交流

チュニジアの剣道代表選手の来石にあたり湯殿山道場と石巻市総合体育館の剣道場を会場に剣道交流会を行いました。

石巻市は、政府が創設した、復興「ありがとう」ホストタウンにチュニジア共和国を相手国として登録しており、チュニジア共和国への表敬および交流事業に関する意見交換を行った際、剣道の代表選手から強い意向を受け四日間の石巻滞在が決まりました。

石巻市の地域振興課から協力要請を受けての開催で、文化的な交流も念頭に置きながら計画・立案いたしました。

初日は、日本剣道形の演武披露で幕を開け交流稽古、二日目、当連盟居合道部会による全剣連制定居合を披露、三日目、チュニジア代表選手たちは、少年剣道を見学し指導の仕方を熱心に学んだ後、子供達との交流稽古、さらにその日、終了予定を変更し一般稽古にも参加、自らの技術向上に努め道を求める姿は



心打たれるものがありました。四日目は、日本刀による試斬を披露、宮城県美術刀劍保存協会から講師を招き、チュニジアの代表選手たちと共に剣道の起源である日本刀について学びました。

初めは緊張で表情も硬かったが、交剣知愛の言葉などおり剣を交えるごとに打ち解け合っていく様子が心地良く、心暖まる光景も数多く見受けられました。国際交流的な意味合いも強く、共に親交を深め合うことができた内容の濃い四日間であったと感じております。

おかげさまで、成功のうちに事を運ぶことができました。また、剣道を正しく真剣に学び、本来剣道の持つ内面的要素にも理解を深め正しく伝えていくことの大切さを実感しました。チュニジア共和国に於いて剣道がさらに発展して行くよう心から願っています。

最後になりましたが、この交流会を実施するにあたり、ご多用にも拘わらず快くご助力くださいました先生方々、積極的に参画くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

総務部会長 鈴木 克範



指導部

指導部所管事業について

石巻剣道連盟指導部では、大きく六つの事業を所管しています。

①小学生練習会および一般稽古会。これは毎月第二土曜日、広渕小学校体育館にて実施しています。小学生練習会は午後6時30分から8時まで。一般稽古会は8時から8時50分です。普段稽古できない者同士が、月一回一堂に会しての稽古会です。各自の一層の技術向上を目指して、奮ってご参加いただきたいと思います。

②審判講習会。会員各位の審判技術の向上、意思統一のために実施しています。本来であれば、県剣道連盟主催の講習会が毎年実施されており、そちらに参加していただくのが本筋ですが、様々な事情でそちらに参加できない会員各位のために設定しています。しかし、この2~3年、参加者が十数名と非常に少ない状況です。つばぜり合いに関する事項の変更など、改正点もございますので、会員各位におかれましては万障繰り合わせてのご参加をお願いしたいと思います。

③小学生学年別大会出場選手選考。前年の成績[石巻錬成大会3位以上の入賞者、本大会ベスト8以上の入賞

者]で選出された児童(無条件出場者)で、出場枠が満たされない場合に実施しております。8月中を目処に実施しておりますが、参加者が多く大変盛り上がった選考会になっております。その成果か、石巻から出場した児童の、本大会での優勝者がここ数年連続して出ております。今後も高みを目指して日々の稽古に精進してもらいたいと思います。

④県民体育大会、⑤市郡対抗剣道大会出場者の選考。これらについては、小学生学年別大会選考と同じように、選考会を実施して決定できればよろしいのですが、現実は選手候補者が少なく、その選出に苦労しています。仕事の合間に縫っての稽古で、それぞれ難しいとは思いますが、月1回の一般稽古会にもっと数多くの方々に参加していただき、そこで各自の技術向上を図っていただければ…と思います。そしてその方たち中心に出場選手を選考できればと考えております。

⑥日本剣道形講習会。地元出身の範士八段遠藤勝雄先生にお願いして3回目になる講習会です。9月中旬に実施してきておりますが、微に入り細を穿った講習会は参加者から大好評です。十本目までの講習のため、参加資格を四段以上としております。「理合」を身につけるためには、稽古だけでなく、剣道形の修練も必要不可欠です。数多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

指導部会長 安齋 雅裕

鹿又剣道スポーツ少年団

鹿又剣道スポーツ少年団。設立されたのが昭和54年7月1日に地元の有志により発足されました。初代の団長として庄司俊美先生が10年務められ、二代目の高橋文四郎先生が5年間務められ、その後三代目の団長を引き継ぎ今日になります。

現在稽古に参加しているのは、年長組が3名、小学生が5名、中学生が10名程おります。稽古日は月・水・金と週3回、鹿又小学校体育館で午後7時より午後8時30分と週3回でしたが、今は体育館の建て替え工事の為曜日が変わったり、場所の変更で全員が参加することが難しく、特別の稽古日として土曜日の午後6時から和渕小学校の体育館で中学生を中心に稽古しています。

指導者は、鹿又剣道卒業生の有志の応援も有り、大変助かっております。指導法は、指導者の得意とする部分の指導をお願いすることで効果が表れていると思います。よい仲間に恵まれて助かっています。

私の教えは一対一の教えが多く、恩師である武山松五郎先生、遠藤勝雄先生に教わったことを伝えながら、私も剣道を始めて60年になり、それなりに学んできたことを一人一人の子供に合った稽古を工夫し

ながら教えるようにしています。全体でやるのは四本五本と連續打ちをしても崩れず自由自在に素早く移動できる足の使い方を大事にしています。

何事も楽しくないと上手になられません。自分で努力、工夫することを身につけることが大切であると思います。剣道を学んだ人は礼儀作法はあたりまえのこと、心身を鍛え、社会人になって剣道を学んでよかったですと思ってくれればと思います。

最後に、剣道とは何か、剣道にしかないものは何か、伝統遺産を身に付け、伝統文化を学ぶ剣道であってほしいものです。

代表 高橋 三武



第三回剣道祭を終えて

平成最後の剣道祭が、1月27日(日)、石巻市河北総合センター(ビックバン)において盛大に開催されました。

日本剣道形と居合道の演武の後、午前中は小学生の部と中・高校生の部に分かれ、錬成個人戦が行われました。一本勝負で、時間が許す限り試合を繰り返す方式で行い、勝ちが多かった選手には世界大会の記念手拭い等素敵な記念品が渡されました。

昼食後は、小・中・高校生が一般の先生方にかかる合同稽古を参加者全員で行った後、九人制団体戦を行いました。

各地区・団体で小学生から一般まで9名からなるチームを編成しトーナメント戦を行いました。17チームが参加し、一本勝負という緊張感の下、各地区・団体の期待を背負い熱戦が繰り広げられました。

新しい試みとして行われた九人制団体戦の優勝チームは「一心堂」チームに決定しました。準優勝は「湯殿山」チーム、第三位は「正心学館」と「梅の木剣道」チームでした。

石巻剣道連盟として初めて行われた錬成個人戦・九人制団体戦の剣道祭でした。実行委員会としても手探りの実施で、至らない点も多々あったかと思いますが、たくさんの皆様のご協力のおかげで成功裏に終了いたしましたこと、心から感謝申し上げます。

広報記録部 戸田 俊博



昇段者の横顔



段数	なまえ 名前	1 年齢	2 剣道を始めた時期	3 指導者	4 稽古場所
7段	かんの しげる 管野 茂	1 67歳	2 渡波中学校1年生	3 串岡 茂先生	4 渡波少年剣道・彰徳館

段数	ほし よしのり 星義典	1 65歳	2 矢本第二中学校1年	3 星知了先生	4 廣心館道場・彰徳館
7段	すがわら よひと 菅原 誉人	1 63歳	2 鹿又中学校1年	3	4 東松島金曜稽古会・桃生朝鍛会

段数	さとう あつし 佐藤 敦史	1 49歳	2 大原小学校4年生	3 阿部 礼記先生	4 東松島金曜稽古会
7段	こやま さかえ 小山 栄	1 44歳	2 3歳・護国館	3 柴田 良蔵先生	4 県庁出向中特定道場なし

段数	かのまた よしのり 鹿ノ又 善則	1 65歳	2 蛇田中学校1年生	3 鈴木 清由先生	4 蛇田剣道スポーツ少年団(蛇田小学校)
6段	とびかわ まさよし 飛川 正義	1 56歳	2 小学4年・彰徳館	3 松谷 宏次先生	4 湯殿山道場・彰徳館

- 矢本高校OG会 - あの旗の下で

佐藤 育子

「この旗って・・・あの旗だよね！」
「気魄」と書いてある旗。

私たちは当時、矢本高校の西体育館の壁に掲げられている旗の下、稽古に励んでいました。その様子を見守ってくれていた大きな旗。経年劣化で両端が破れかかっていましたが、その旗を見た瞬間・・・三十数年前のあの頃が、鮮明にフラッシュバックしてきました。

昨年八月、私たち矢本高校剣道部OGは、宮城県東松島高校（旧矢本高校）を訪れ、武道館をお借りして少しの時間稽古を行いました。あの頃活動していた体育館は、今はなく立派な武道場になっていました。そこにこの「気魄」が掲げられていたのです。

当時顧問だった佐藤幸男先生にも、お越し頂き、稽古をつけて頂きました。少ない人数でしたので、あの頃のような激しい稽古？とはいきませんでした（笑）が、気持ちだけは、高校時代に戻ったような、充実した時間を過ごすことができました。

稽古を終え、部室をお借りして着替えようとしていた時、ふと、窓際の棚に目を向けると、なんと、三十数年前、共に戦った、あの「黄金の胴」が飾られていたのです。それを発見してから、私たちのテンションが上がってしまったことは、言うまでもありません。

当時、宮城県高校総体三連覇、インターハイ連続出場と、個人、団体でも輝かしい成績を収めた矢本高校。それを支えるための激しい稽古と一緒に乗り越え、数多くの大会にも身に着けた思い出の胴。部員だった私たちの汗と多くの涙を知る「黄金の胴」。

でも、「待てよ、よく考えてみると、三十数年も経っているのに、当時の胴が残っているのだろうか」という

疑惑が浮かんできました。しかし「気魄」の旗を残して頂いた経緯について、先生から伺い、その疑惑は払拭されました。私たちは、その胴をお借りして、記念写真を撮り、沢山の思い出の場所、今は無き母校を後にしました。



夕方より、旭山ドライブインにて、佐藤幸男先生を囲み懇親会が行われました。稽古には参加できなかった方、現在剣道はしていないけれど、遠くからこの為に駆けつけてくれた方。先輩、後輩問わず、思い出話がたくさんできて本当に楽しい一時でした。なんと言っても、先生からの「今だから言えるあのときのこと」には、皆さん大興奮でした。

最後に、「部活がつらくて何度もやめたいと思いました。でも今は、あの時剣道をしていて、本当に良かった。今の自分があるのは、高校時代の剣道があったからです。」と、先生に感謝の言葉を送りました。

今回、このような会を開催することになったのは、それぞれの子供の剣道の試合場で再会したのがきっかけです。私を含め、家庭を持ち、自分の子供が剣道を始めた折りに、剣道

を再開。いわゆる「リバイバル剣道」の方が多く、子供と一緒に稽古をしながら、という同じ境遇であること。当時の学年は違っても、あの旗の下で、激しい稽古と一緒に乗り越えてきたという共通項が私たちを近づけたと思います。

昨年、幸いなことに、河北杯に出場させて頂くため、何度か稽古もさせて頂きました。その時「怪我のないように、楽しく、稽古しよう！」を合い言葉に清々しく稽古ができました。それからも、何度か集まり、楽しく飲み稽古？（笑）もさせて頂いています。



自身、家庭を持ち、仕事し、剣道を続けるのは、簡単ではないと思っています。自分自身の天命を受け入れて、先輩後輩関係なく、同じ境遇の同士として無理はせずに、お互いを認め合い、学び合い、高め合っていけたらいいなと思います。だからこそ第一線で活躍されている女性剣士の皆さんることは、本当に心から尊敬いたします。

私たちも、生涯剣道をめざして、おばあちゃんになっても、健康のため楽しく剣道がんばろうと話しています。

編集 後記

皆様方がこの広報誌を目にする頃には、新年度の希望に満ちた忙しさの中に、それぞれの有りがたさを感じている頃だと思います。今回、第6号発行に当たり、広報記録部として新体制で臨みました。新年度に望む方々に相応しい記事を掲載出来ました。寄稿頂きま

した方々に感謝致します。石巻剣道連盟の一年の総括、活躍された方々、努力が穫った方々、思い出の記事。それぞれに敬意を表します。子は「親の背中を見て育つ」と言われています。つい「口」が出てしまうのが「親」。解っていないながら聞く耳を持たないのが「子供」。心の中でお互い大切に想っている事は確か。この広報誌が、これからの方々の「指標」となる様にと願っています。

石巻剣道連盟広報記録部